



実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2020 年 12 月 10 日 (2020 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	岐阜県立大垣特別支援学校
実践番号	1
タイトル	職員防災力テスト 学校防災計画 (災害対策マニュアル) の周知徹底
実践担当者のお名前	山本隆史 山本悟 (防災安全部職員)

実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	西暦 2020 年 6 月 8 日～西暦 2021 年 3 月 (予定)
実践の所要時間	算出不能
実践の運営側で動いた人の人数	4 人
防災教育の対象者の属性	教職員
防災教育の対象者の人数	約 150 人
実践を行った都道府県と市区町村	岐阜県大垣市
実践を行った具体的な場所	岐阜県立大垣特別支援学校
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	・パソコン (グループウェア・エクセル) に詳しい職員 ・教育委員会運用のグループウェア (アンケート機能)

達成目標	・学校防災計画 (災害対策マニュアル) をより確実に全職員に周知徹底できる方法の確立を目指した。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	少し



実践内容・方法

1. 職員防災カテストシステム開発

○教育委員会が運営するグループウェアのアンケート機能を活用

<パソコン表示画面>



- ・職員メールや校内外の電子掲示板、施設予約等ができる機能
- ・アンケート機能（黒枠）を活用

<アンケート画面>

職員防災カテスト（12月）

1 休日又は在宅時の基本的な対応について
 (1) 休日又は在宅時に地震が発生した場合、職員がとるべき行動として正しいものはどれか。（複数選択）
 1. 震度5弱以上の地震が発生した場合は全職員が出勤する。
 2. すぐメールで出勤状況を連絡する。
 3. 学校から連絡がない場合は、電話で出勤状況を連絡する。
 4. 可能であれば、道路状況等を学校に連絡する。
 1 ☒ 2 ☒ 3 ☐ 4 ☒

2 火災発生時の基本的な対応について
 (2) 授業中に火災が起きた時の対応や避難の対応について正しいものはどれか。（複数選択）
 1. 近くの職員は、安全な場所（煙を吸わない・素早く・廊下や外）へ児童生徒を誘導する。
 2. 煙を吸わないように（ハンカチを口当てて・床から低い姿勢で）指示する。
 3. 自動ドアは、第一避難者が電源を切り、最終避難まで開けた状態にしておく。
 4. 最終者は、各教室の残留物の有無を、声を掛けながら確認し、教室や自動ドアを開けておく。
 1 ☒ 2 ☐ 3 ☒ 4 ☐

3 緊急地震速報発表時及び地震発生時の対応について
 (3) 避難時の対応について正しいものはどれか。（複数選択）
 1. お互いに適切な距離をとって避難する。
 2. 避難経路の状況について、声を掛け合ったり、情報共有したりしながら避難場所へ避難する。
 3. 児童生徒を列の後から守りながら誘導する。
 4. 余震を想定して慌てず、靴を必ず履いて避難する。
 1 ☒ 2 ☒ 3 ☒ 4 ☒
 (4) 13:50に北海道胆振地方で震度7の地震が発生すると緊急地震速報が発表されました。対応について正しいものはどれか。（複数選択）
 1. 遠距離であるため、そのまま授業を続ける。
 2. 廊下にいたため、教室に戻って机の下に隠れる。
 3. 運動場にいたため、中央に集まる。
 4. 窓やエアコンなど、危険なものから離れたところで膝を広げ、額を床につけてシェイクアウトをする。
 1 ☐ 2 ☐ 3 ☒ 4 ☒

回答の送信

- ・様々なアンケートに活用されていた機能で、回答状況や回答結果を集計することができる。

2. 実施方法

○スケジュール

- ・第1週→問題作成
- ・第2週→問題配信
- ・第3週→回答集計
- ・第4週→結果、解説回覧（回覧もグループウェア内で行う）



○問題作成

- ・学校防災計画（災害対策マニュアル）から毎月4問出題する。
- ・問題を考えることで、できるだけ多くの職員が学校防災計画（災害対策マニュアル）を再確認できるように、防災安全部職員4名が輪番で問題を作成した。
- ・問題作成時は、時期に応じた内容や前月に正解率が低かった内容を出題した。

(例) 6月→警報発表時の対応について

9月→地震への対応・対策について

校外学習中の対応について（校外学習が多い時期）

- ・問題作成者が問題原稿を配信担当に渡し、配信担当がアンケートを作成する。

○問題配信

- ・配信担当者が第2週の月曜日に問題を配信する。
- ・配信担当者は回答状況を確認し、未回答者に連絡する。

○回答集計

- ・アンケート機能の結果は、エクセルに反映されるため、右図のように集計できる。
- ・正解率が低い問題が分かるように文字を網かけした。

○結果・解説回覧

- ・結果集計後、解説を記載し、グループウェアの回覧機能を活用し、結果と解説を回覧した。

1 警報発表時の対応について	
(1) 警報発表時の対応について正しいものを3つ選べ。(複数選択)	
1. 午前10時までに警報が発表された場合は、平常通り授業を行う。	114 31.4
2. 午前10時を過ぎても警報が発表されていないが、午前11時警報が発表される見込みがある場合は、自由時間を短縮する。	115 32.5
3. 登校途中に警報が発表された場合は、自力通学等は、必ず自宅へ戻らなければならない。	116 33.6
4. すでに「授業・出席」に警報発表が発表された場合でも、各教室の警報発表の伝報を確認する必要がある。	117 34.7
～解説～	
・午前10時までは警報が発表されない場合は臨時休業となります。	
・登下校中は警報が発表された場合、自力通学等は、自宅や学校のどちらか近い方に戻ります。	
・各教室には伝報機が設置されており、警報発表が伝報された場合は「授業・出席」に「警報」が表示されます。	
2 地震発生時の基本的な対応について	
(2) 地震発生時の基本的な対応について正しいものを3つ選べ。(複数選択)	
1. 地震発生時に、教室・避難場所と避難経路を確認しておく。	118 35.8
2. 地震発生時の対応は、状況により異なる。	119 36.9
3. 地震発生時の対応は、状況により異なる。	120 38.0
4. 地震発生時の対応は、状況により異なる。	121 39.1
～解説～	
・地震発生時の対応は、状況により異なる。	
・地震発生時の対応は、状況により異なる。	
・地震発生時の対応は、状況により異なる。	
・地震発生時の対応は、状況により異なる。	
3 緊急地震速報発表時及び地震発生時の対応について正しいものを3つ選べ。(複数選択)	
1. 緊急地震速報が発表された場合は、対象の地域を避けてから避難行動をとる。	122 40.2
2. 緊急地震速報が発表された場合は、対象の地域を避けてから避難行動をとる。	123 41.3
3. 緊急地震速報が発表された場合は、対象の地域を避けてから避難行動をとる。	124 42.4
4. 緊急地震速報が発表された場合は、対象の地域を避けてから避難行動をとる。	125 43.5
～解説～	
・緊急地震速報発表時は、対象地域は関係なく、まずは避難行動をとる。	
・揺れが収まってから避難行動をとる可能性があります。周囲の状況を確認し、避難が必要と判断した場合は、本部の指示を待たず避難してください。	
(4) 休日又は在宅時に地震が発生した場合、職員がとるべき行動として正しいものを3つ選べ。(複数選択)	
1. 地震発生時に、自宅の状況を確認し、必要に応じて避難行動をとる。	126 44.6
2. 地震発生時に、自宅の状況を確認し、必要に応じて避難行動をとる。	127 45.7
3. 地震発生時に、自宅の状況を確認し、必要に応じて避難行動をとる。	128 46.8
4. 地震発生時に、自宅の状況を確認し、必要に応じて避難行動をとる。	129 47.9
～解説～	
・地震発生時は、原則、スマートフォンやタブレットを使用して確認してください。	
・学校から連絡がない場合は、学校代表メールは出勤状況を連絡してください。	

得られた成果

- ・学校防災計画（災害対策マニュアル）を全職員に周知徹底する方法を確立することができた。
- ・職員防災力テストを毎月実施することで、「〇〇の場合はどうすると良いか。」等の会話が aumentari、マニュアルを確認したりする職員の姿が増え、防災意識の向上が見られた。



	・問題作成にあたり、学校防災計画（災害対策マニュアル）を毎月見直すため、改善点等を検討する機会が自然に増えた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	少し
課題・苦労・工夫	・当校の実施方法では、グループウェア機能が必要である。また、ある程度パソコンに詳しい職員が必要である。（場合によっては、他分掌との連携が必要） ・新型コロナ関係のアンケート等、毎月数多くのアンケートがあるため、混在したり、職員の負担とならないように実施したりする必要がある。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	防災担当の先生方
伝えたい内容	災害発生時の対応や災害への備えは担当の職員だけではできません。その為、危機管理マニュアルの職員への周知は必須ですが、周知方法に苦労されている先生も多いと思います。本実践は、既存のシステムを用いたことで、職員への負担も少なく、効果的に実施できたと思います。既存のシステムを上手く活用し、危機管理に関して全職員が自分事として意識をもつことができる取組みが大切だと思いました。